



二重構造の羽根からなるファン。直径は25cm。最強運転時には、8メートル先まで風を届けることができる。

BALMUDA GreenFan mini

バルミューダ「グリーンファン・ミニ」

撮影/内藤サトル 取材・文/JQR編集部

コードレスで使える！ 自然のそよ風を 思わせる省エネ扇風機

日本では、すでに夏の省エネに関心が高まっている。消費電力が大きい家電といえばエアコンだが、節電のために夜間のつけっぱなしはやめようとタイマーをかけても、熱帯夜ともなればタイマーが切れると同時に目が覚めてしまう始末。そこで、エアコンを賢く利用するためのアイテムとして、昨年から注目を集めているのが扇風機だ。

多くのメーカーから発売されているが、2010年に登場したバルミューダの「GreenFan」は、画期的なデザインと構造で話題になった。以来、毎年発売されるとすぐ完売してしまうほど。今年も、小型化した「GreenFan mini」もラインアップに加わった。

そもそも「GreenFan」シリーズが話題を集めたのは、これまでの扇風機とはまったく異なる

スタイリッシュで機能的なデザイン。ファンの羽根が内側と外側と二重構造になっており、外側の羽根からは内側の1.8倍の風速の風を生み出す。羽根の枚数も従来の扇風機より多い。この二重構造の羽根によって、1枚のファンから2種類の風が生まれ、その風がファンの約40cm前方で1点に集まる。すると、集中した風はぶつかり合って反射し、大きく拡散されて自然の風のようなやわらかな風になるのだ。風を集中・拡散させるという発想は、町工場の職人が「風がやさしくなるから」といって、扇風機の風を一旦、壁に当てていたことから思いついたという。また、羽根を二重構造にすることは、子どもたちが大人数で二人三脚をしている映像がヒントになった。隣の人と足を結んで大人数で一列で走ると、両端の子は速く進むが真ん中の子は遅くなる。すると、足の遅い真ん中の子に足を引っ張られて、端の子は真っ直ぐ走れなくなってしまふのだ。それと

同様に、速度の異なる二種類の風を隣り合わせで作れば、同じことが起きるのではと考えたのだ。試行錯誤を繰り返したところ、そのアイデアは成功。結果的に今のデザインに落ち着いた。

さらに、モーターの回転数もデジタルモーターの採用により、従来の半分以下を実現している。今回新発売の「GreenFan mini」では、最強運転時の消費電力はわずか2W。8メートル先まで風が届く最強運転時でも約10Wだ。1日8時間運転しても、1か月の電気代は約11円程度である。音も限りなく静かで、眠りを遮らない。

加えて、別売りの「モバイルバッテリー」を利用すれば、電源コンセントなしで好きな場所で使える。電力の安い夜のうちに充電して、昼間はそれを使えばピークシフトにも貢献でき、より効率的に使えるというわけだ。

コンパクトながらもさまざまな技術が凝縮された「GreenFan mini」。扇風機のイメージをガラリと変える商品なのだ。

●お問い合わせ先/バルミューダ ☎0120-686-717 <http://www.balmuda.com/jp/>

BALMUDA GreenFan mini



本体の操作は、グリーンに光っているクリックホイールで行う。電源のオンオフ、4段階の風量調整、1～4時間のタイマー設定ができる。便利なりモコンも付属。

「GreenFan mini」2万4800円。「UniPack」をセットにした「GreenFan mini+BATTERY」は3万4800円



本体の台座下には、手のひらサイズのバッテリー「UniPack」が入られる。約4.5～5.5時間の充電で最大20時間の連続運転が可能。一般的なUSB端子を装備しているので、スマートフォンなどモバイルデバイスへの充電もできる。